平成29年度　全国学力・学習状況調査における

北九州市立　松ヶ江北　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語，算数）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語A・B，算数A・B）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回った。無解答はほとんどなく、あきらめずに答えようとする態度がみられる。 ・手紙など、「書くこと」が苦手な傾向を示している。
	よくできた問題	・漢字を読む問題や、漢字を書く問題
	努力が必要な問題	・手紙の構成を理解し，後付けを書く問題。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の、どの領域も全国平均正答を上回った。。 ・文章量が多く、読みこなすのが大変だったようで、最終問題で無解答の児童がいた。
	よくできた問題	・動画を見る目的を捉えることを通して，目的や意図に応じ，適切な言葉遣いで話す問題。
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じ，必要な内容を整理して書く問題。

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回った。無解答はまったく無く、速く、正しく答えようとする態度がみられる。
	よくできた問題	・二つの数の最小公倍数を求める問題。
	努力が必要な問題	・重さ，長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ問題。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回った。無解答はほぼなく、あきらめずに答えようとする態度がみられる。 ・「図形」の領域の正答率が低かった。最後の問題で、時間がなかったことも考えられる。
	よくできた問題	・示された割合を解釈して，基準量と比較量の関係を表している図を判断する問題
	努力が必要な問題	・身近なものに置き換えた基準量と割合を基に，比較量を判断し，その判断の理由を記述する問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概

質問紙調査の結果分析
・「休みの日、一日当たりどれくらいの時間、勉強していますか」において、全員が勉強しており、長時間勉強している児童も多い。また、「家で、計画を立てて勉強をしている」において、している児童が全国平均を上回っている。これらのことより日頃から、自分で計画を立て、継続的に学習を行っている児童が多いと考えられる。 ・「自分にはよいところがあると思いますか。」において、肯定的な回答をしている児童が全国平均より低く、自己肯定感が低い傾向があると考える。 ・「一日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」や、「一日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」において、全国平均より多く見たり、ゲームをしたりする児童が多く、家庭での過ごし方に課題があると考えられる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

本校は小規模校であり、様々な配慮を必要とする児童がいるので、一人一人の児童をしっかりと見取り、学習を進めていくよう、全校で共通理解を図る。また、少人数指導や専科指導などの積極的な活用を図り、学力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭での過ごし方に課題があるので、家庭との連携を強化していく。